

「総合的な利用メニューの充実」に係る取組

1. 大台ヶ原自然資源調査

(1) 調査の方法

大台ヶ原における自然体験学習や普及啓発に役立てるために、以下のような点を目標として、現地調査により、大台ヶ原の自然資源を把握した。

- ①大台ヶ原に関する情報発信の自然資源を整理すると共に、西大台ガイド制度等に係る検討のための共通の基礎資料とすること。
- ②利用者が大台ヶ原の魅力に触れ、自然に対する関心や理解を深めることができるように、利用者の立場から、比較的目に触れやすい自然資源を中心として案内図作成の基礎資料を把握すること。
- ③利用者の多い季節だけでなく、利用者の少ない季節における魅力資源の掘り起こしに留意すること。

また、現地調査にあたっては、下記の諸点に留意した。

- ①大台ヶ原の歩道を踏査し、眺望景観、特徴的な森林景観、スポット景観、動物の風景などの自然資源のみならず、歴史の風景と定義した生活文化の痕跡、音風景と定義した鳥の声や水の音についても項目として加え、合計6項目に区分して、下表のような自然資源を抽出すること。
- ②調査票と写真によって資源の内容、および現地の状況を記録した。また、GPSで各地点の緯度、経度、標高を記録すること。
- ③東大台では、ガイドに同行を依頼し、普段ガイドの際に紹介している自然資源、その他の特筆すべき自然資源（珍しい植物や大台ヶ原らしい植物）などについて説明してもらい、それを中心に記録すること。
- ④「森林景観」については、景観のシークエンス（連続性、場面ごとの関連）を捕えるため、場面の移り変わりに注意して、景観や雰囲気の変化する度に、その内容を記録すること。

表 1-1 調査項目と調査概要

項目	概要
眺望景観	・遠方の山並みや滝などへの眺望が得られる地点
特徴的な森林景観	・歩道を取り囲む、優占樹種や下層植生の特徴に基づいて、森林景観の特徴を把握 ・森林の雰囲気の変化に着目して、雰囲気が変わった地点、および変化内容を景観のシークエンスとして把握
スポット景観	・特徴的な植物（草花、花木、巨木等）や特徴的な地形（巨岩、溪流、湧水等）がみられる地点
動物の風景	・鳥の鳴き声が聞こえる場所、魚影を見ることができる溪流、その他の動物と出合った地点等
歴史の風景	・石碑、開拓の痕跡、生活文化の跡（杣道跡など）、伝承に関する地点
音風景	・歩道を歩いている際に聞こえる特徴的な音が確認された地点

(2) 調査結果の概要

対象項目ごとの概要は、以下の通りである。

1) 西大台地区

①眺望景観

眺望景観としては、展望台から大蛇嶺、中の滝方面への眺望ポイント1ヶ所が確認できた。

②特徴的な森林景観

特徴的な森林景観としては、コケ群落が美しい地点、バイケイソウやカワチブシ群生地、ヒノキの巨木が多い箇所など、計19ヶ所が確認できた。

③スポット景観

ミズナラの巨木、コケ群落など、ある程度永続性のあるスポット景観が23ヶ所、リョウブ、ツルアジサイ等の草花、キノコ等の季節的なスポット景観が9ヶ所確認できた。

④動物の風景

計22ヶ所において、動物を目撃または動物の痕跡が確認された。多くは偶発的な目撃であるが、クマ棚跡の多い箇所やアマゴの確認地点など、ある程度継続性のあるポイントが確認できた。

⑤歴史の風景

計8ヶ所の資源が確認され、大台教会、松浦武四郎碑のほか、生活文化に関するものとして、トロッコ道の跡などが確認できた。

⑥音風景

ヤマガラ、コガラ、カケス、キツツキ科等の鳥の鳴き声とともに、広範囲において沢の音を聞くことができるプラスの音風景のポイントが把握できた。

一方、北側ルートのドライブウェイに近い区間では、広範囲でドライブウェイを走行する自動車の音が聞かれるマイナスポイントが把握できた。

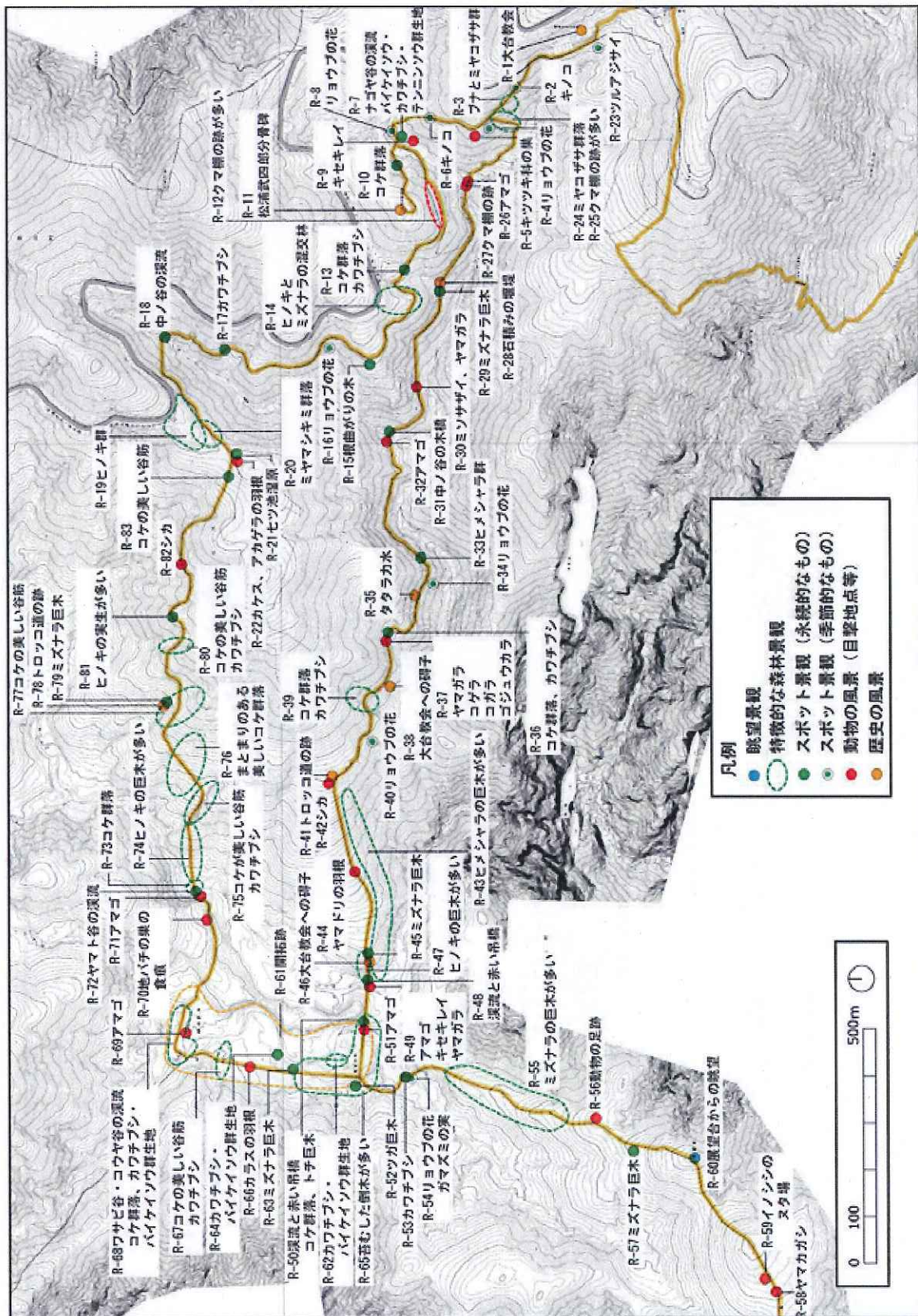


図1-1 西大台地区の自然・歴史資源

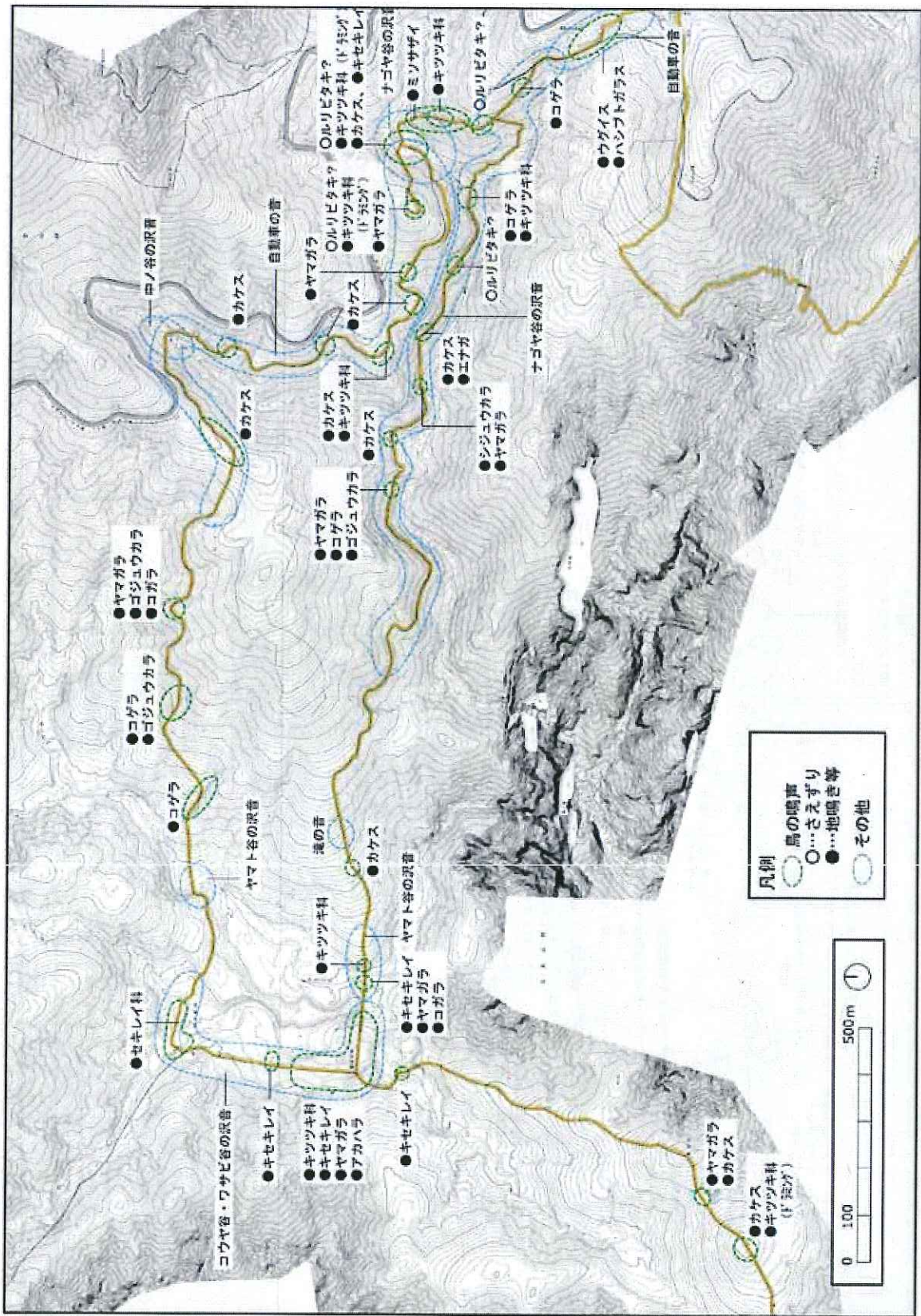


図1-2 西大台地区の音風景

2) 東大台地区

①眺望景観

眺望景観としては、日出ヶ岳および展望デッキ、大蛇嶺からの眺望ポイント3ヶ所が確認できた。

②特徴的な森林景観

特徴的な森林景観としては、ブナの純林、シロヤシオやシャクナゲ群生地、立ち枯れしたトウヒとミヤコザサが展開する箇所など、計8ヶ所が確認できた。

③スポット景観

ミズナラの巨木、コケ群落、特徴的な巨岩など、ある程度永続性のあるスポット景観が18ヶ所、ツルアジサイ等の草花、キノコ等の季節的なスポット景観が5ヶ所確認できた。

④動物の風景

計9ヶ所において、動物を目撃または動物の痕跡が確認された。多くは偶発的な目撃であるがシカやニホンザルなどの動物が目撃され、ある程度継続性のあるポイントとして、ヌタ場やキツキ科の巣などの動物の痕跡が確認された。

⑤歴史の風景

神武天皇像、牛石、湿地（御手洗池）、古川嶺の墓、正木ヶ原の大正期の皆伐の跡の計5ヶ所の資源が確認された。

⑥音風景

ルリビタキ、ウグイス、コガラ等の鳥の鳴き声とともに、シオカラ谷の沢音やエゾハルゼミの音を聞くことができた。大蛇嶺やシオカラ谷一帯では、コマドリやウグイスのさえずりが確認できた。

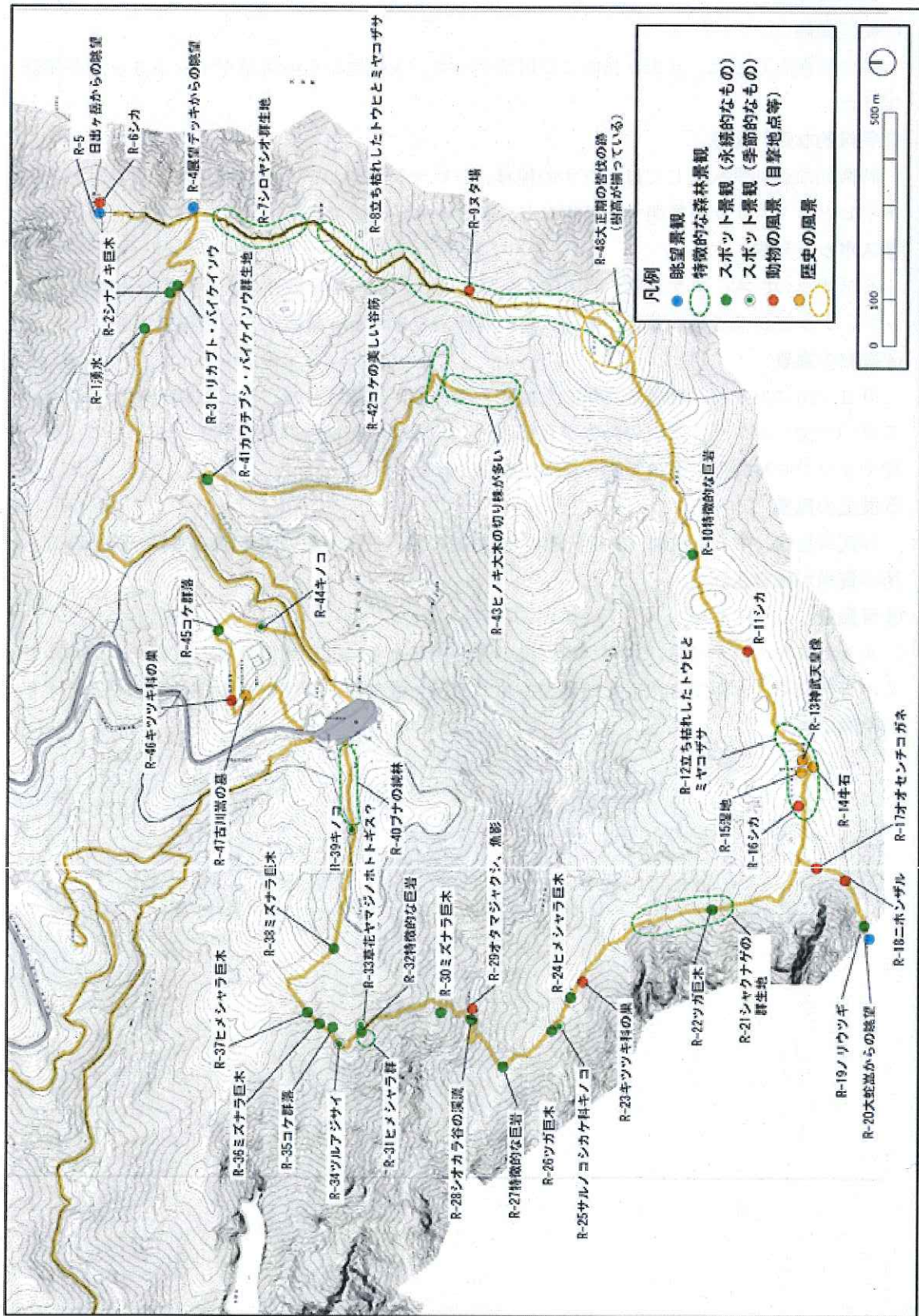


図1-3 東大台地区の自然・歴史資源

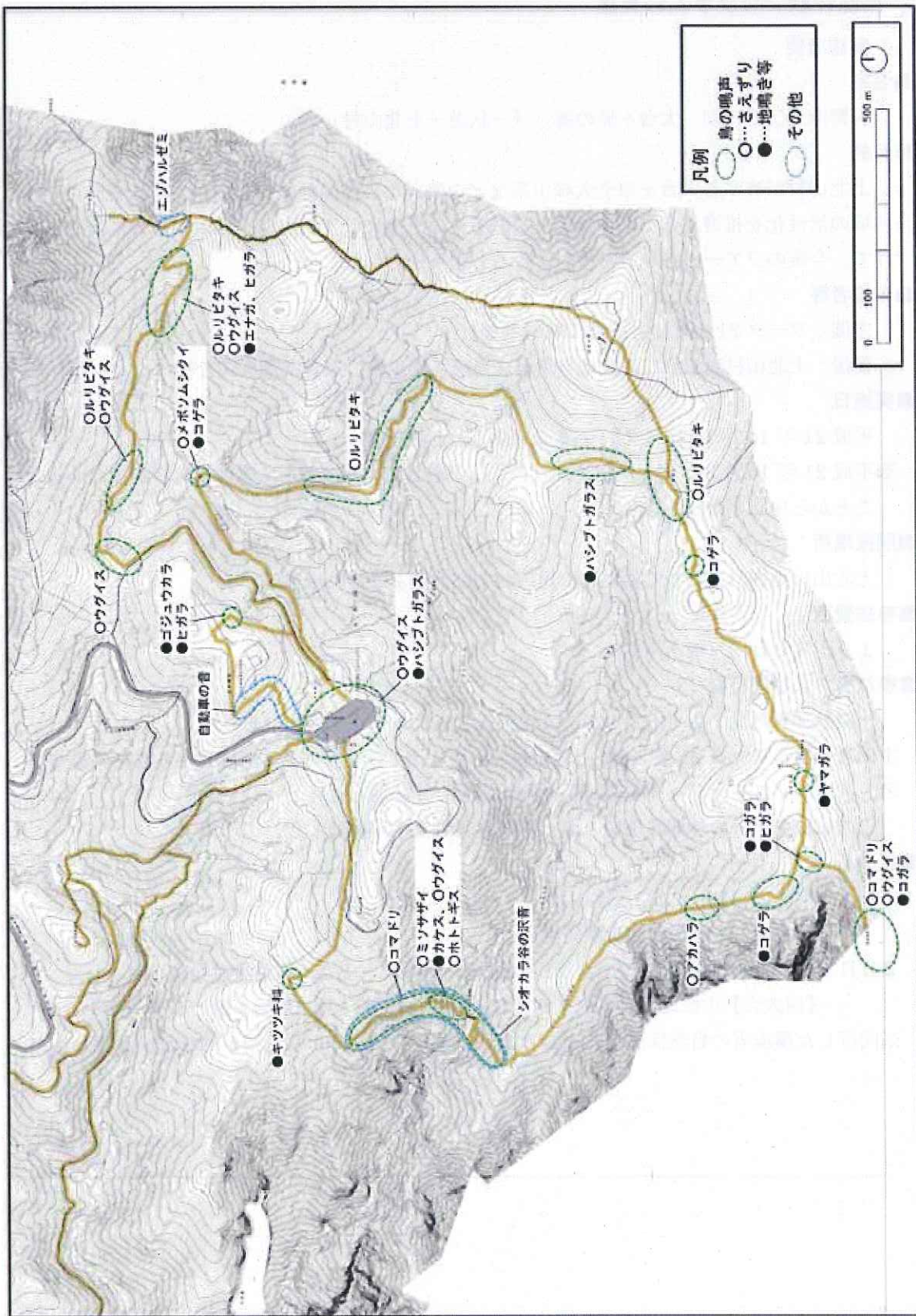


図1-4 東大台地区の音風景

2. 自然体験プログラムの実施

(1) 実施概要

■名称

吉野熊野国立公園 大台ヶ原の郷 「一秋遊一上北山村」

■目的

上北山村が有する大台ヶ原や大峰山系などの豊かな自然の魅力を発掘し、それを活用した地域の活性化を推進するためのツアーを試行すると共に、実施ツアーに対する外部評価を受けて、今後のツアーのあり方を検討することを目的とした。

■主催者等

主催：ワーク 21 上北山、上北山村（共催）

後援：上北山村商工会、近畿地方環境事務所、奈良県、奈良交通株式会社

■実施日

平成 21 年 10 月 14 日（水）～15 日（木） 1泊2日

※平成 21 年 10 月 3 日（土）～4 日（日）に予定していたツアーは参加申込者が少なかったことから中止となった。

■開催場所

上北山村地内（主として和佐又山周辺および大台ヶ原西大台地区）

■参加費用

19,800円（税込み）

■参加者および同行者

一般参加者数は7名（夫婦2組、女性友人3人グループ1組）であった。

主催者であるワーク 21 上北山、上北山村から各1名、後援者である環境省から自然保護官2名、アクティブレジャー1名が受け入れ側として参加した。

その他にツアーの外部評価者1名、記録担当者1名が同行した。

■ガイド

1日目：福嶋氏（ワーク 21 上北山）

松島氏（上北山村建設産業課）

2日目：【日の出】福嶋氏（ワーク 21 上北山）、松島氏（上北山村建設産業課）

【西大台】小松氏（ガイドクラブ北山いこら）、石丸氏（大台ヶ原ビジターセンター）

※同行した環境省の自然保護官およびアクティブレジャーからも補足的な解説が行われた。

■ ツアー行程概要

1日目：大峰山系めぐり

- 8 : 00 近鉄橿原神宮前駅中央出口集合
点呼およびツアーの概要説明
- 8 : 20 近鉄橿原神宮前駅出発
- 9 : 50 和佐又山ヒュッテ到着
- 10 : 00 準備体操をして笹の窟へ向けて出発
- 10 : 10 登山道入り口の案内板を用いたコース説明
- 11 : 30 笹の窟到着（昼食：おにぎり弁当・コーヒーサービス）
- 12 : 10 下山開始
- 14 : 05 和佐又ヒュッテ到着後、上北山温泉薬師湯へ出発
- 14 : 45 薬師湯にて入浴
- 15 : 35 大台ヶ原へ向けて出発
- 16 : 30 大台ヶ原山上駐車場に到着後、西大台入山のための事前レクチャー受講
- 17 : 00 大台荘チェックイン後、夕食
- 19 : 30 ナイトハイク
（日出ヶ岳方面およびシオカラ谷方面の歩道で動物を観察）
- 20 : 30 大台荘にて解散

2日目：大台ヶ原めぐり

- 5 : 00 日の出を見るために日出ヶ岳と正木嶺の鞍部に位置する展望台へ出発
- 5 : 30 展望台到着
- 6 : 00 日の出を見た後、大台荘へ
- 7 : 00 大台荘にて朝食
- 8 : 00 ガイドの紹介、準備体操後、西大台へ出発
- 10 : 20 展望台到着
- 11 : 25 ヤマト谷到着（昼食）
- 11 : 55 ヤマト谷出発
- 12 : 30 セツ池到着
- 13 : 20 ナゴヤ谷到着
- 13 : 45 駐車場到着後、ビジターセンターにてアンケート
- 14 : 10 大台ヶ原出発
（当初は小処峡見学・小処温泉入浴を予定していたが、時間の都合から川上村の杉の湯入湯に変更）
- 15 : 10 杉の湯にて入浴
- 15 : 55 杉の湯出発
- 16 : 45 橿原神宮前駅到着後、解散

■ 広報

広報は、上北山村からダイレクトメール（約 400 通）でリーフレットを送付するとともに、上北山村のホームページ上にツアー案内とリーフレットのPDFを掲載した。



表側



裏側

図 2-1 広報リーフレット（A4両面カラー）

■ ツアーコース 地図：上北山村全図・国土地理院発行 2万5千分の1地形図を使用

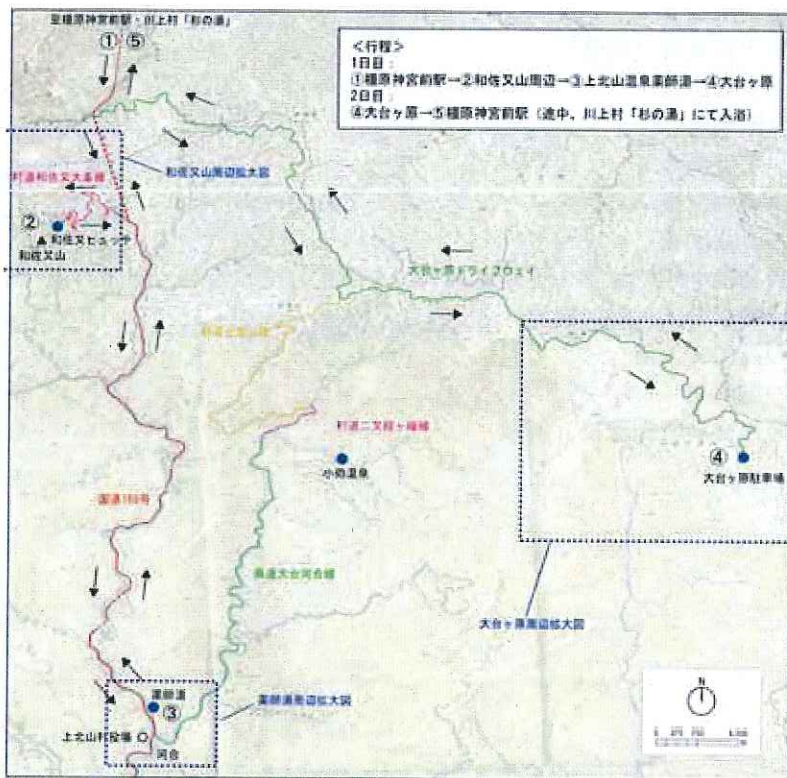


図 2-2 ツアーでの訪問先位置図（上北山村地内）

(2) 上北山村ツアーの効果検証のためのアンケート調査

1) 方法

■調査対象者および調査方法

ツアー参加者7名に対して、ツアー2日目(10月15日(木))に西大台利用調整地区から下山した後に、大台ヶ原ビジターセンターのレクチャーホールにおいて実施した。

なお、アンケート後の行程(川上村の温泉「杉の湯」:当初予定していた「小処峡・クラガリ又滝見学」および「小処温泉入浴」は時間の都合から中止となり、川上村の温泉「杉の湯」での入浴に変更された)についてはアンケートの対象外となっている。

■アンケート項目

アンケートは、参加者属性と今回のツアーに関する下記の項目で行った。

表2-1 アンケート項目

アンケート項目	内容
参加者属性	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢・性別 ・グループ構成 ・ツアー情報の認知方法 ・参加のきっかけ ・上北山村・西大台地区への来訪経験
今回のツアーについて	<ul style="list-style-type: none"> ・開催時期、日数、参加費用に対する評価 ・ガイドの分かりやすさ ・ツアーに対する満足度 ・ツアーの良かったところ、良くなかったところ ・次回開催時の参加意向 ・印象に残ったこと、改善すべきこと(自由記述)

2) アンケート調査結果

①参加者属性

○年齢・性別

参加者の年齢はすべて50代以上で、男性は50代1名、60代1名の計2名、女性は50代2名、60代3名の計5名であった。

参加者の年齢層は平成20年と同様、中高年のみであった。

表2-2 年齢と性別

性別	年齢	
	50代	60代
男性	1	1
女性	2	3

(参考)平成20年の結果

年齢	人数
40台	1
50代	4
60代	5
70代	1

性別	人数
男性	6
女性	5

○グループ構成

参加者のグループ構成は、家族（夫婦）が2組、友人（3人組）が一人であった。

平成20年は1人での参加が11人中5人であった。

表2-3 グループ構成

グループ形態	グループ数	人数
家族	2	4
友人	1	3

※家族は全て夫婦

(参考) 平成20年の結果

グループ形態	グループ数	人数
ひとり	5	5
家族	2	4
友人	1	2

○ツアー情報の認知方法

ツアーに関する情報を知った方法は、7人中6人が「友人等からの紹介」で、「その他」が1人であった。平成20年は上北山村からのダイレクトメールや、環境省や上北山村のホームページという回答も多かったが、平成21年は知人等からの紹介が大半を占めた。

表2-4 ツアー認知方法

ツアー認知媒体	人数
上北山村からのダイレクトメール	
知人等からの紹介	6
上北山村ホームページ	
その他	1

※その他は「学校飼育動物関連のメーリングリスト」

(参考) 平成20年の結果

ツアー認知媒体	人数
上北山村からのダイレクトメール	5
知人等からの紹介	2
環境省ホームページ	1
上北山村ホームページ	1
その他	2

※その他は「環境省からのダイレクトメール」

○参加のきっかけ（複数回答）

ツアー参加のきっかけは、大台ヶ原や西大台地区に興味があったこと（6人）、およびガイド付きのツアーだったこと（4人）を挙げた人が多かった。

②来訪経験

今回初めて大台ヶ原を来訪した人が2人、2～3回来たことがある人が5人であった。西大台については、全員が初来訪であった。

③今回のツアーについて

○ツアーの開催時期・曜日・日数

開催時期・曜日・日数共に、全員が「今回の時期がよかった」、「平日がよかった」と回答した。

○参加費用

ツアーへの参加費用については、4人が「ちょうど良かった」と回答したが、「高かった」と回答した人が3人であった。なお、「高かった」と回答したうちの1人からは15,000円が適切との回答があった。

○ツアーガイドの説明の分かりやすさ

ツアーガイドの説明に対しては、1日目、2日目とも全員が「大変分かりやすかった」もしくは「分かりやすかった」と回答しており、ガイドに対する評価は良好であった。

○ツアーに対する満足度

ツアー全体について1人が「ふつう」と回答した以外は、「とても満足」もしくは「満足」と回答した。

○ツアーの中で良かったところ（複数回答）

ツアーの中で良かったところとして最も多く挙げられたのは「笙ノ窟」（4人）であった。その他には「特保の森」（3人）、「西大台利用調整地区」（2人）について複数の人が選択した。

○ツアーの中で良くなかったところ（複数回答）

ツアーの中で良くなかったところとして挙げられたのは、「大台荘」（2人）、「クラガリ又滝見学」（1人）、「小処温泉」（1人）であった。これらのうち、「クラガリ又滝見学」および「小処温泉」については、予定が変更されたために訪問できなかったことが理由であり、場所に対する評価ではない。

④今後の参加意向

今後の参加意向については、回答のあった6人のうち1人が「ぜひ参加したい」、5人が「都合が付けば参加したい」と回答しており、「参加したくない」という回答はなかった。

3. 大台ヶ原に係る展示等の実施

(1) 目的

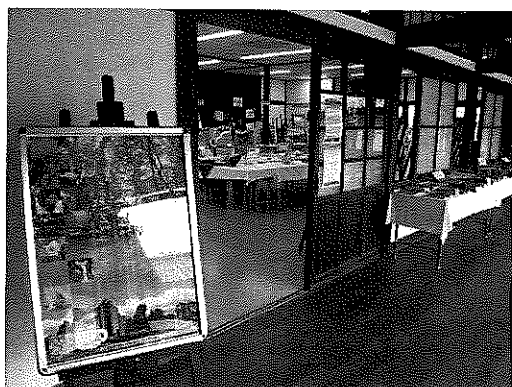
大台ヶ原の魅力と自然再生の取り組みについて、広く普及・啓発を行うことを目的として、京都御苑で開催された近畿地方の国立公園紹介イベントにおいて、大台ヶ原自然再生の取り組み等についての展示を行うとともに、大台ヶ原自然再生に造詣の深い講師を招いて、来訪者に対する解説イベントを実施した。

(2) 自然再生に係る展示解説

1) 自然再生に係る展示

「近畿の豊かな自然展～山と水の息吹を感じて～」の開催期間に合わせて、平成 21 年 7 月 10 日から 8 月 2 日までの期間、大台ヶ原自然再生に関する内容について等のパネル展示を実施した（来場者総数：2,674 人）。

大台ヶ原の四季折々の写真や動植物の紹介、自然再生や利用調整地区の取り組みに関するパネルに加えて、防鹿柵の実物や種子おとしマットの解説展示、国立公園のルールに関するカードゲーム、森のめばえを解説するパラパラマンガ等、多彩な展示内容となった。



会場のエントランス



大台ヶ原の四季折々の写真



防鹿柵の解説



種子おとしマットの解説



国立公園のルールに関するカードゲーム



森のめばえの物語 (パラパラマンガ)

2) 自然再生に係る解説概要

開催期間のうち、7月20日～22日の祝日を含む3日間、大台ヶ原における自然再生に造詣の深い講師を招いて、来訪者に対する大台ヶ原の自然などに関する解説イベントを実施した。各回の日時、講師、解説のテーマは下表の通りであり、大台ヶ原の基礎的な自然の魅力から、大台ヶ原の森を特徴づけるコケ植物、大台ヶ原の生態系の特徴と抱える問題などであった。

表3-1 開催日時と講師・プログラム概要

日時		講師	テーマ
7/20 (月・祝)	11:00～11:30 第1回	大台ヶ原ビジターセンター 石丸幸宏氏	大台ヶ原の自然 大台ヶ原における自然再生・利用調整地区の取り組み
	13:00～13:30 第2回		
	14:00～14:30 第3回		
7/21 (火)	13:30～14:00 第1回	森と水の源流館 木村全邦氏	大台ヶ原のコケ植物
	14:30～15:00 第2回		
	15:30～16:00 第3回		
7/22 (水)	13:00～13:30 第1回	大阪市立自然史博物館 佐久間大輔氏	大台ヶ原の生態系の特徴と抱える問題
	14:00～14:30 第2回		
	15:00～15:30 第3回		

3日間、全8回の参加者の合計は52名であり、そのうちアンケート回答者は44人(84.6%)となった。なお21日の2回目については、荒天のために参加者が不在であったため、中止とした。

表3-2 各回の参加者数とアンケート回収数

開催日時	1回目	2回目	3回目	合計
7月20日(月・祝)	4 (4) ※	6 (6)	4 (1)	14 (11)
7月21日(火)	1 (1)	中止**	9 (5)	10 (6)
7月22日(水)	5 (5)	7 (7)	16 (15)	28 (27)
合計				52 (44)

※ () はアンケート回答数 ※※荒天のため、参加者が不在であったために中止とした。

(4) 参加者へのアンケート調査の実施

1) 参加者の属性

①年齢・性別・都道府県

参加者は、20代から60代以上まで幅広いが、特に50代以上が77.3%を占め、59.1%が女性であった。都道府県別にみると、開催地の京都府が22名と最も多く、次いで大阪府(10名)、滋賀県、奈良県、兵庫県(各3名)であった。

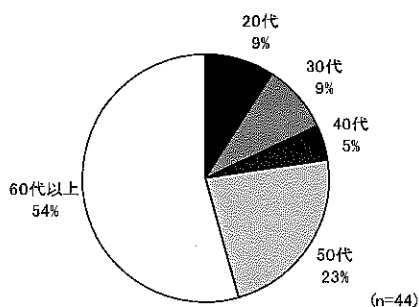


図3-1 参加者の年齢層

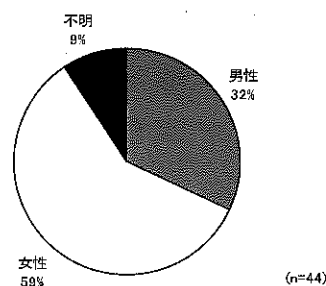


図3-2 参加者の性別

②大台ヶ原への来訪経験

大台ヶ原への来訪経験については、44名中24名(54.5%)が「これまでに行ったことがある」と応えた。また「知っているが行ったことがない」のは16名(36.4%)であり、大台ヶ原を「知らなかった」のは4名であった。また来訪経験のある24名について、来訪回数を尋ねたところ、「1回」が10名で最も多かったが「10回」も4名であった。

表3-3 都道府県別の人数

府県名	人数
京都府	22
大阪府	10
滋賀県	3
奈良県	3
兵庫県	3
千葉県	2
その他	1
計	44

表3-4 大台ヶ原への来訪回数(来訪経験者のみ)

来訪回数	人数
1回	10
2回	2
3回	3
4回	2
5回	2
10回	4
無記入	1
計	24

2) 取り組みの認知度

大台ヶ原における自然再生の取り組みについては、全体の59.1%が「知っていた」が、西大台における利用調整地区については、「知っていた」のは全体の45.5%であった。

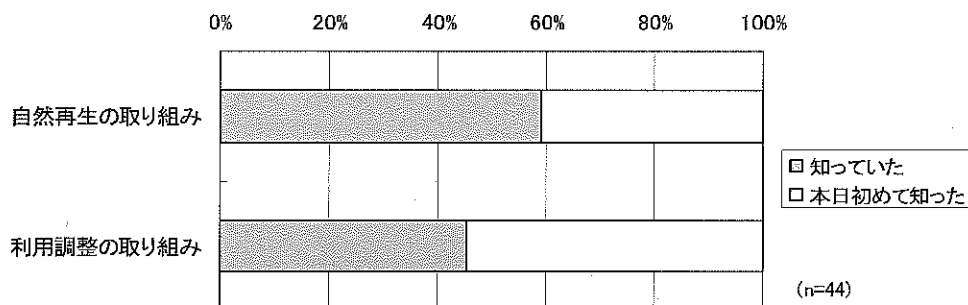


図3-3 取り組みの認知度

3) 広報

今回の展示・解説イベントについては、「本日のアナウンス」が21名(47.7%)と最も多く、次いで環境省ホームページ(7名、15.9%)となっている。

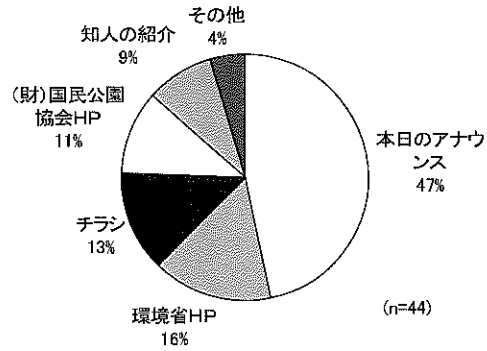


図3-4 認知の手段

4) 自然解説について

①満足度とわかりやすさ

参加した自然解説についての満足度は、全体の81.8%(36名)が「満足」「とても満足」としており、概ね好評だったといえる。また解説の内容のわかりやすさについては、全体の90.9%(40名)が「わかりやすかった」「とてもわかりやすかった」としており、参加者が理解する上で適切な内容であったと評価できる。

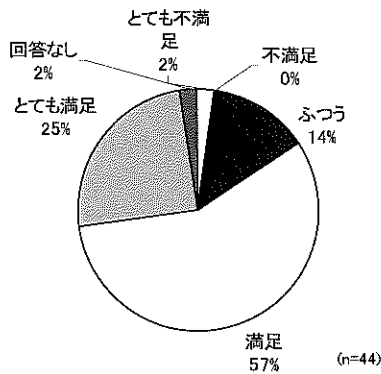


図3-5 レクチャーの満足度

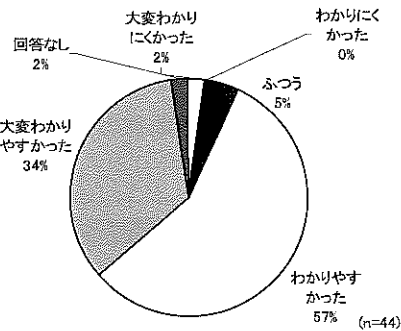


図3-6 講師の説明のわかりやすさ

②自然解説に関する自由記述

自然解説については、おもしろかった、映写を見て素晴しさは良くわかった、知ったつもりでいてもレクチャーで再認識できたなどの意見があり、全体として評価が高かった。

5) パネル展示について

①わかりやすさ

大台ヶ原のパネル展示のわかりやすさについては、全体の61.4%(27名)が「わかりやすかった」「とてもわかりやすかった」としており、適切な内容であったと評価できる

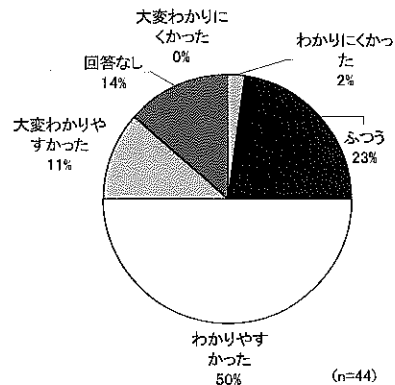


図3-7 パネル展示内容のわかりやすさ

②特に印象に残ったもの

写真展示では、大台ヶ原の花々の写真、大台ヶ原のコケ植物などが印象に残ったものとされた。立体展示では、シカの被害と自然のすばらしさ、森のめばえの物語、パラパラマンガなどがあげられた

6) 全体的な感想

①大台ヶ原への来訪希望

今回のイベントを通じて「大台ヶ原へ行ってみたいと思うか」という問いに対して、81.8%(36名)が「行きたくなった」「とても行きたくなった」と回答した。なお「あまり行きたくない」を選択した理由として「バスで上に行くのにまがりくねった道を行き、車酔いしそうになってしんどかった(60代・女性・京都府)」との回答があった。

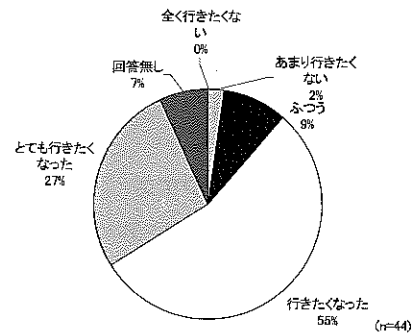


図3-8 大台ヶ原への来訪希望

②参加してみたいイベント

今後、参加してみたいイベントとしては、「ガイド付きハイキング」が24名(全体の54.5%)と最も多く、次いで「野鳥や動物の観察会」(16名)、「花や樹木の観察会」(15名)であった。

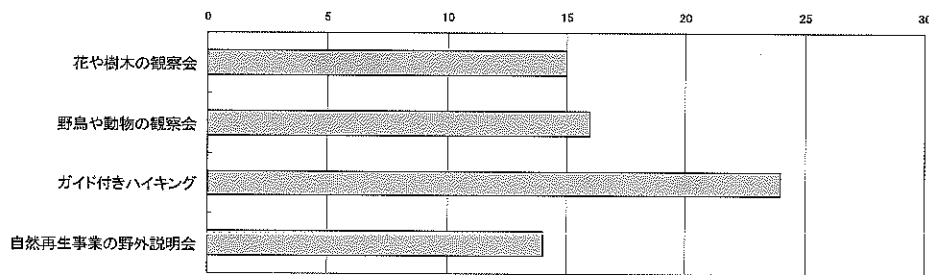


図3-9 参加してみたいイベント (複数回答)

(5) 展示・解説イベントに関する考察

今回の展示・解説イベントでは、参加者の半数近く(20名、45.5%)が「大台ヶ原を知らない・行ったことがない」者であり、大台ヶ原の魅力や自然再生の取り組みについての普及・啓発の効果があったといえる。また自然解説についても、それぞれのテーマに対して活発な意見交換がなされ、盛況に終わったといえる。パネル展示等についても、立体展示への評価が高く、様々な視点で大台ヶ原の自然再生に係る取り組みについての理解を深める効果があったといえる。

自由記述では、今回のようなイベントの開催を望む意見が見られたほか、参加したいイベントに関する質問では、ガイド付きハイキングへの要望が高いなど、大台ヶ原への関心をとりつけたといえる。

今後は、さらに幅広い層を対象とした自然解説イベントの実施が求められる。